

# 福祉分野へのつながりをめざす「自立活動」に関する研究

## A Study of Self-Support Activities for Autistic Children

(2005年3月31日受理)

福森 護 松田 文春\* 二階堂修以知\* 浅野久美江\*  
Mamoru Fukumori Fumiharu Matsuda Shuichi Nikaido Kumie Asano

Key words : 自閉症, コミュニケーション, 自立活動, 福祉

### 要 旨

特別支援教育において、個々の生徒の教育的ニーズに応じた教育を行うことは、QOLの向上につながることになる。とくに、個別の教育支援計画は、特別支援教育の柱となるものであり、その作成にあたっては、実態の的確な把握が不可欠である。中でも、自閉症児の場合、自立活動における「心理的安定」に関する支援は、学校教育修了後の福祉分野へのつながりをもたせ、QOLの向上について考えることにもつながり、教育実践上の大きな課題である。そのような課題意識をもち取り組んだ本研究の成果として、自閉症児のコミュニケーション能力の向上に向けての実践モデルを提示した。

### 1. はじめに

特別支援教育においては、これまでの特殊教育に比べて、一層個々の児童生徒の実態に応じた支援を行うことを基本理念としている。それは、生涯教育の観点に立ち、学校教育修了後の障害者の社会生活をより豊かなものにするための基礎を築くものである。すなわち、個々の児童生徒の学習課題は、日常生活がより円滑に送れるために必要な課題を設定し、その課題が達成できるように取り組むことになる。中でも、自閉傾向のある子どもの課題として、コミュニケーション能力の向上を挙げる場合が多い。そのために、自立活動における「心理的な安定」に重点を置いた学習課題が支援のうえで中心的な役割を担うことになる。

自立活動については、筆者らが実践研究に取り組んだ西備養護学校（以下、S校）では、知的障害部門の各学部とも週時程表に「自立活動」の時間を設けていないが、領域・教科を合わせた指導の中で指導している。また、

「個別の指導計画」を作成し、自立活動についても目標を決め、実践評価している。

本研究は、平成17年度からの「個別の教育支援計画」の策定に向けての「個別の指導計画」の見直しの意味合いも有している。今回の事例も「個別の指導計画」から抜粋で取り上げた。その中で、生徒の実態を「自立活動の5区分」で捉えることを試みたことは本研究の大きな特色でもある。このことが、今後の指導・支援に活用していくうえでの指針になればと考えている。そして、「個別の移行支援計画」と一体をなすことにより、学校教育修了後の長い社会生活の中で何らかのかたちでかわりを持つであろう福祉の分野にスムーズにバトンタッチできることを理想としている。そして、学校教育の成果が福祉の分野に有効に反映され、一人一人の社会生活がより充実したものになるように念願し本研究に取り組んだ。

注) \*岡山県立西備養護学校

## 2. 研究方法

本研究は、S校知的障害部門中学部に在籍した男子生徒Aの3年間の事例研究である。Aは、知的障害のある自閉症の生徒である。そのことを念頭に、Aの個別指導計画を作成した。まず1年次への入学の段階で、Aの生活環境の把握を行うことから始めた（Table1 生徒のプロフィール）。そして次に、「自立活動の5区分」に基

づいてAの実態把握を行った（Table2 生徒の実態）。こうして作成した基礎資料をもとにして、Aの自立活動における目標を設定した（Table3 自立活動の目標）。この目標が達成できるように、日常の領域・教科を合わせた指導の中で「心理的な安定」に迫れる単元に焦点をあてながら3年間指導・支援を継続し、中学部を卒業する段階でAにかかわってきた複数教員による観察によりその変容をまとめた。

Table 1 生徒のプロフィール

氏名 ○ ○ ○ ○		男	知的障害中学部第3学年	平成14年度入学
療育手帳	有 (A)		身障者手帳	無
家族構成	父・母・姉・(本人)・妹		障害等	知的障害, 自閉症
本人の願い				担任所見
(H14. 4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車, とっとこハム太郎関連のカタログやインターネットを見たりするのが好きである。</li> <li>・ブランコで遊ぶのも好きである。</li> </ul>			
(H16. 4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後は, 平成16年の春休みに利用した○○作業所へ行きたいと思っている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業所場所・規模・作業内容とも, 本人にふさわしいと思う。</li> </ul>
保護者の願い				担任所見
(H14. 4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良いところを伸ばし, できることを増やして欲しい。</li> </ul>			
(H15. 4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後は, 高等部進学か地域の作業所か迷っている。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験や見学などをして, 本人にあっている進路を共に考えていきたい。</li> </ul>
(H16. 4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後は, 地域の作業所に行って, 働く力もつけながら地域で生活する力もつけて欲しい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業所場所・規模・作業内容とも, 本人にふさわしいと思う。</li> </ul>
入学前の状況	地元公立小学校入学 (特殊学級)		卒業後の進路希望	地元の作業所

Table 2 生徒の実態

1 健康の保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>起床、就寝時刻、食事の時刻等生活のリズムはほぼ一定であるが、就寝時刻は午前0時前後である。</li> <li>脳波にはてんかん発作の波がある。定期通院と服薬で、発作は小3以来起こっていない。</li> <li>服薬の影響で、体温調整が難しい。</li> <li>排泄は自立しているが、便秘になりやすい。</li> <li>食事は偏食が多い。(卵・乳製品・野菜・果物の大部分)</li> <li>短距離では100メートルぐらいをカ一杯走り通することができる。</li> <li>長距離では10分程度走り続けることができる。</li> <li>体力を調整することが難しく、好きな活動に集中して取り組んだ後、次の活動に支障が出ることもある。</li> <li>爪やその周辺の皮膚を噛んだりはさみで切ったりしていることが多い。</li> </ul>
2 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れない場所や場面には適応するのに時間がかかる。</li> <li>変化する状況の把握は難しい。あらかじめ説明しておけば適応できやすい。</li> <li>他者と活動をしているときにも、自分のイメージで記憶している映像を繰り返し再現していることがある。</li> <li>ブランコに乗ったり、好きなキャラクター(ハム太郎)の絵を描いたりすることが好きである。</li> <li>心理的に不安定な状況になると、奇声をあげる、机を倒す、紙を破るなど破壊行動が見られることがある。</li> <li>気にしていることをいったときには、奇声をあげたり、大声を上げたりすることがある。</li> <li>活動の予定時間が終わっても、していることを中断して次の活動に移るように告げると、受け入れられず混乱することがある。</li> </ul>
3 環境の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲の人を、アニメーションのキャラクターに見立てて記憶している。</li> <li>音やにおいなどに比較的敏感である。</li> <li>強い興味のある物を見ると、そのことに注意が集中し、他の情報が入りにくいことが多い。</li> <li>周囲の人の行動を模倣することができる。</li> <li>時刻を意識して行動することは難しいが、具体的な活動の流れが分かればスケジュールに沿って活動できやすい。</li> <li>100程度までの数の概念をもっている。</li> <li>色、感触、音色、大小、形等の認知はできている。</li> <li>上下、左右、前後などの空間認知ができています。</li> </ul>
4 身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>両手の供応や、目と手の供応はできている。</li> <li>食事、排泄、衣服の着脱、洗面等の身近処理の動作はできる。</li> <li>はさみの使い方が上手で細かい物も正確に切ることができる。</li> <li>作業内容が理解できれば、一定時間続けて作業に取り組むことができる。</li> <li>歩く、走る等で単独の移動が可能である。</li> <li>座る、立つ等の場合、同じ姿勢を長く保持しておくことは難しい。</li> <li>日常的な基本動作は、問題なく行える。</li> </ul>
5 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>発語はあるが、意味のある会話になりにくい。</li> <li>「お願いします」「まってください」「はい」「いいです」等であれば、言葉で意思を伝えることができるようになってきた。</li> <li>平仮名・片仮名・アルファベット・簡単な漢字を読むことができる。</li> <li>平仮名等書くことはできるが、書くことで意志を表現することは難しい。</li> <li>文章の理解はできにくい。</li> <li>状況に応じたコミュニケーションをすることは難しい。</li> <li>一人称と二人称の区別をすることは難しい。</li> <li>興味のある出来事については、自分から話すことができるようになってきた。</li> </ul>
諸検査の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>田中ビネー IQ35 (H14/7)</li> <li>S-M社会生活能力検査 5歳11ヶ月 (H15/7)</li> <li>身近自立7-0, 移動4-8, 作業8-9, 意志交換4-3</li> <li>集団参加6-8, 自己統制5-8</li> </ul>

Table 3 自立活動の目標（3年次）

時期	具体的な目標	手 立 て	指導場面
第3学年	前 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一日の活動の流れを、本生徒に確認して設定する。</li> <li>• 予定は、文字に書いて提示し理解できたことを確認して活動に入るようにする。</li> <li>• その日の調子（体温・発汗を含む）を確認し、考慮して水分補給、着替え、涼しい所での休憩を確保する。</li> <li>• 言葉によって意志を伝えようとする意欲を高める。</li> </ul>	学校生活全般  特に 作業学習 国語・数学 休憩移動時間
	後 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「待って下さい」と言うことができる。</li> <li>• 見通しを立てて生活ができるよう、活動を自ら選択したり、事前に予定を確認したりする。</li> <li>• その日の調子（体温・発汗を含む）を確認し、考慮して水分補給、着替え、涼しい所での休憩を確保する。</li> <li>• 意志を伝えるために使用する、言葉の数を増やす。</li> </ul>	学校生活全般  特に 作業学習 国語・数学 休憩移動時間

### 3 実践および結果

#### (1) スケジュールの提示

変化する状況の把握は難しい本生徒も、あらかじめ状況が理解できていれば落ち着いて行動できる。自閉症児にとって、スケジュール表はとても有効な手段である。本学級も5名中3名が自閉症・自閉的傾向のある生徒な

ので、スケジュール表を必要に応じて活用している。一日の予定（Fig 1）、一週間の予定、また、大きな行事があるまでの予定表（Fig 2）等を掲示している。

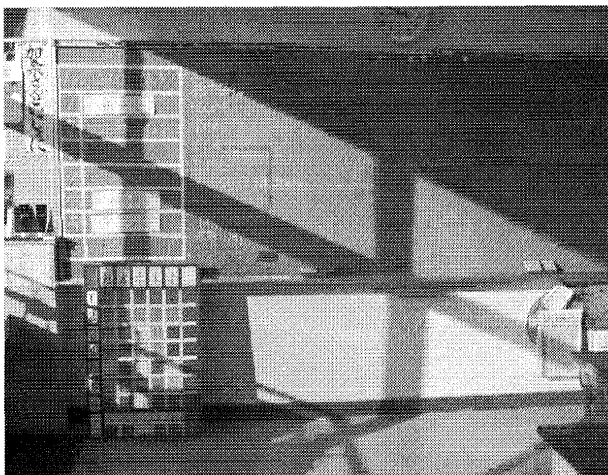


Fig 1 「1日の予定表」

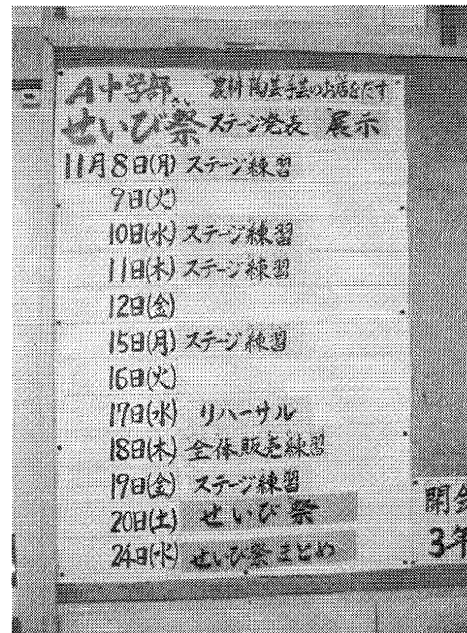


Fig 2 「行事予定表」

## (2) 時間割の「隙間」を大切にした取り組み

同じ時間割で学校生活を送っていても、クラスの生徒5名の活動の内容やペースは少しずつ違う。本生徒が1日をリズムよく過ごせるように、登校時から授業が始まるまでの時間帯の活動内容を、生徒と一緒に決めて実施するようにした。視覚的にわかりやすくするため、生徒専用のカードも使用した。(Fig 3)

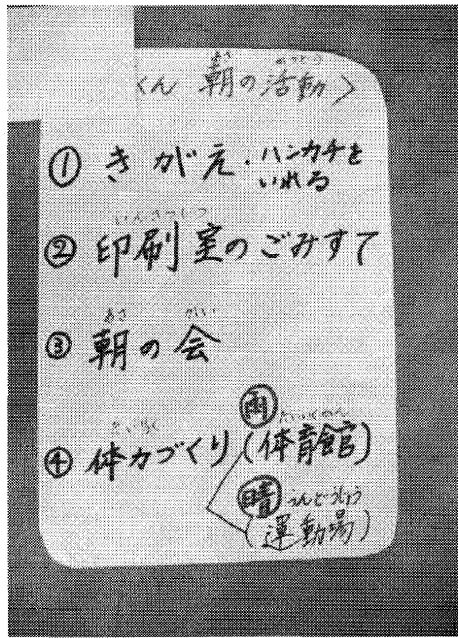


Fig 3 「活動カード」

慣れてくると、朝の会の前に行う係活動（印刷室のゴミ捨て）も、一人で落ち着いてできるようになった。また、ゴミ箱にゴミが無い時や少ない時には「あっ、無い。」とか「あっ、少ない。」と言ってゴミ捨てに行かず、駐車場で好きな自動車を見回ることに時間を当てるようになった。

このように、活動の見通しを持ち、時間割の隙間に楽しい活動も取り入れることによって、朝の会までの時間を安定して過ごすことができるようになった。

## (3) 生徒自身の意向を取り入れたスケジュールの作成

1学期に取り組んだ、「体力づくり」の時間の短距離走（20mダッシュを数回走る）では、苦手な蒸し暑さも加わって、不機嫌になる時や活動に参加できない時が増えた。そこで、ここでも生徒専用のカード（Fig 4）を作り、授業に入る前に何回走るかを生徒と共に決めて提

示した。生徒の意向を反映させたことと、見通しを持たせたことで、徐々に最後まで活動できるようになっていった。

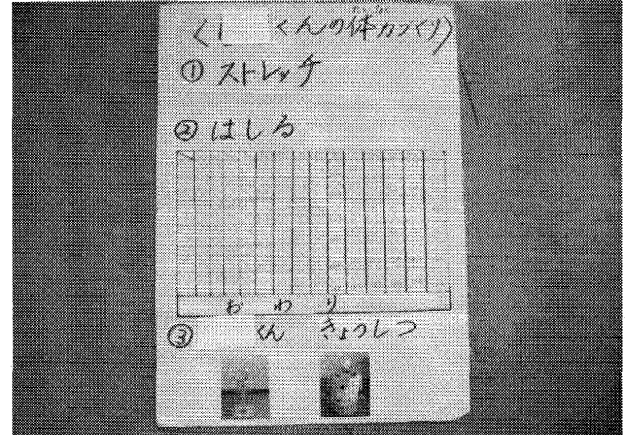


Fig 4 「活動カード」(2)

「作業学習」の場面でも、生徒の意向を反映させるようにした。生徒は農耕班に所属している。作業内容で、落ち葉やたい肥の運搬作業があるが、この活動に見通しをもつことができるように、カウント器具を製作し使用した。利用の仕方は次の通りである。

- ①作業に取り組む前に生徒と一緒に運ぶ回数を決める。
- ②決めた運搬回数の積み木を自分の箱の中に入れておく。(Fig 5)
- ③1回運ぶごとに積み木を一つずつポケットに入れて移動する。
- ④目的地に着くと、自分のカウント器具に積み木をさす。(Fig 6)
- ⑤積み木が箱の中になくなれば、作業が終了したことがわかる。

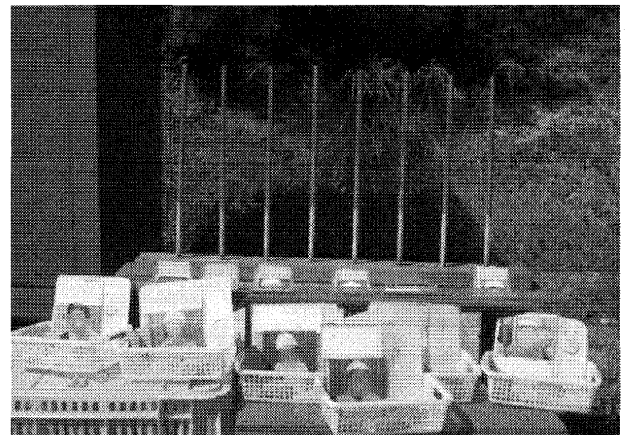


Fig 5 「積み木箱」

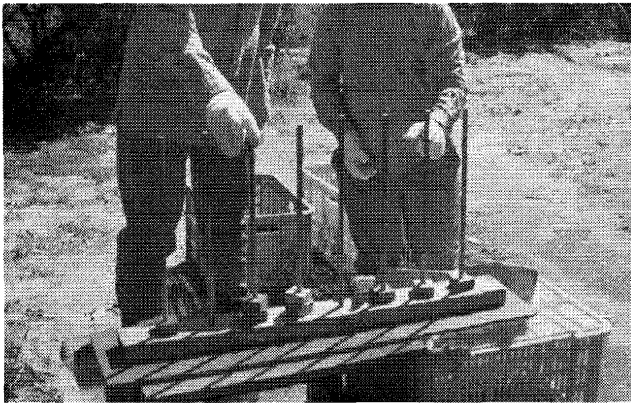


Fig6 「カウント器具」

生徒と決めた目標回数を達成したときには、必ず休憩時間を確保するようにした。作業の終わりが分かりやすくなったことで、結果的に、能率よく安定して作業学習に取り組むことができた。

(4) 言葉によって意志を伝えようとする意欲を高める取り組みについて

1週間に2回(45分ずつ)、教師と1対1で比較的静かな環境を設定した。

1学期は、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけるための取り組みとして、自分が発した言葉が受け止められていることを認識させることができるよう、特有の独り言を書きとめ、見せるようにした。(Fig 7・8)

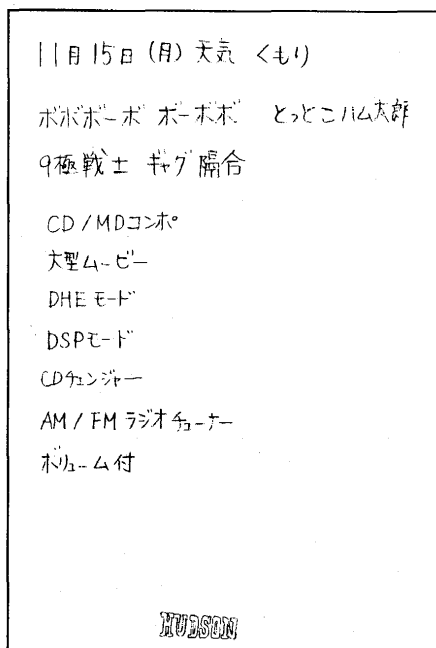


Fig7 「独り言」のメモ1

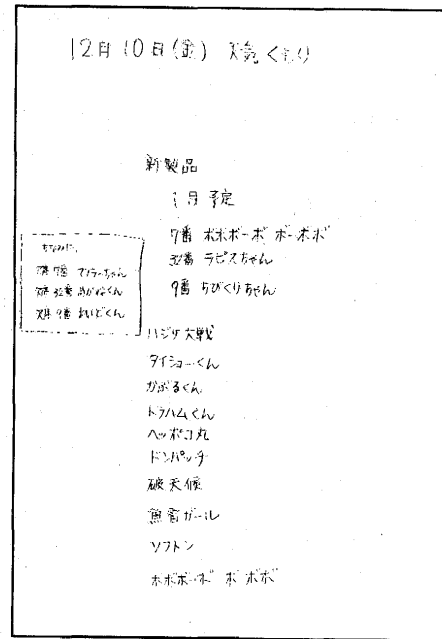


Fig8 「独り言」のメモ2

初めは不思議そうにながめていたが、自分が言った言葉が書き留められていることを、徐々に心地よく感じるようになったようである。一ヵ月経過した頃から、イメージしたことを積極的に言葉で表現するようになった。ただし、表現される内容は生徒特有のものである。この取り組みによって、「言葉で表現することで、他者と情報を共有することができる」という感覚を強くもつことができたようである。また、「以前に話したことを何回も繰り返し確認することができる」といった楽しみ方もできるようになった。

2学期になって、生徒がこの時間をとても楽しみに待つようになったので、意思を伝えるために使用する、語を増やす取り組みを行った。短く使用しやすい表現で、日常生活に応用が可能なものを選んで定着させるように試みた。具体的には「お願いします」「待ってください」「おじゃまします」「・・・を貸してください」「ありがとうございます」「・・・してください」「はい。」「・・・しません」「できました」等が確実に使用できることを目指した。

生徒が意思を言葉で表現した時にはしっかりと受け止め、生徒に対する行動で示し、伝えるようにした。この取り組みによって、日常生活の中でも適切に言葉を使用し意思を伝えることが増えてきた。

## 6. 考 察

以上のような取り組みの結果、本生徒の生活の中であらわれた変化を項目でまとめた。

- ・他の教室に行くときに、「○○へ行きます」と報告できるようになった。
- ・本生徒が「待ってください」と言うことで、活動を中断させられることがなくなったので、納得してから活動内容を切り替えることができるようになった。
- ・11月下旬に、作業所で実習を行ったが、実習ノートに書いてあるスケジュールを自分で確認することにより、安定して一週間の実習を行うことができた。
- ・生活の中の重要な場面で、「○○中止。△△へ行きます」とはっきりと伝えることができた。

自閉症児が心理的に安定して生活するためには、様々なところで実証されているとおり、スケジュールの視覚的な提示は不可欠である。さらに、Aへの取り組みで確認したことをまとめると次のようになる。

- ①スケジュールを視覚的に提示する。
- ②スケジュールの中へ生徒の意向を反映させる。
- ③スケジュールの中へ生徒の楽しい活動を盛り込む。
- ④生徒の視点で作成したスケジュールにする。(単に時間割を提示するのではない)
- ⑤コミュニケーション能力を高める指導を行う。(より適切な方法でコミュニケーションができるように)
- ⑥自閉症の生徒が好んでいる独特な世界を共有する。

このことは、他の生徒にも応用できると思われるので、教育活動全般に今回の実践を生かしていきたいと考えている。

さて、Aは日常生活の様々な場面で、言葉を使って表現することが増えてきた。一方、Aの語句の使用は一般的でない場合も多く、限られた語いでの表現には、私たちに理解しにくい内容もある。私たちはできるだけ、生徒の意図するところを受け止めることができるよう、個々の生徒の周辺環境を把握し、感性を磨き情報を共有できるように心がけなければならないであろう。それによって、学校生活はもとより学校教育修了後の生徒のより安定した生活が保証できるのではないかと考える。

## 〈参考文献〉

- (1) 文部省(2000): 盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領(平成11年3月)解説—自立活動編—, 海文堂出版株式会社
- (2) 全国知的障害養護学校長会編(2003): 自閉症児の教育と支援, 東洋館出版社
- (3) 杉山登志郎編著(2002): アスペルガー症候群と高機能自閉症児の理解とサポート, 学習研究社
- (4) 内山登紀夫(2002): 高機能自閉症・アスペルガー症候群入門, 中央法規